

町嘱託医 あつまクリニック石間巧院長 新型コロナウイルス感染症に関するメッセージ

みなさんこんにちは。あつまクリニック院長の石間 巧です。

本日は、新型コロナウイルス感染症について、厚真町嘱託医として、また各小中学校の学校医として、その立場からお話ししたいと思います。

ウイルス感染症として有名なのは、インフルエンザがあります。日本全国で、毎年750万人から1000万人がかかり、約1万人が死亡していると言われていています。しかし現在、通常の感染症となっています。それに比較して何故、今回の新型コロナウイルスはこれ程までに恐れられ、政府から緊急事態宣言が発令されるに至ったのでしょうか。それは、正体がよくわからない感染症で、急速に広がり、色々な問題が解決できなくなったからです。

今回の感染症の問題点として①感染力が強くて、早いこと。昨年末に中国で発症してから約4か月で全世界に広がりました。②感染していて熱や咳といった症状がなくとも、他の人に感染してしまうこと③多くの人にまだ免疫が無いこと④明らかな治療薬が無いことです。

わかってきたこともあります。①触れた人、触れたものから感染する。咳やくしゃみの粒子から飛沫感染すること②8割以上の人風邪のような軽い症状のまま、2週間くらいで治癒すること③一方で、心臓や糖尿病、気管支喘息などの合併症がある高齢の方は重症化しやすいこと。

インフルエンザと同じように扱われるまでには、いくつかの到達点が考えられます。①タミフルなどのような治療薬が開発されること。②ワクチンが開発されること③世界中の人が緩やかに感染し、何等かの免疫を獲得することです。どの点も1～2年という長い時間が必要でしょう。

その為に私たちに必要なのは時間です。強い感染力を持って、急速な拡大をきたしたために対応する時間がありませんでした。

現在、急激な感染拡大のために医療崩壊が起きかけています。新型コロナウイルスによる感染が判明した人は、原則的に入院治療を行っています。その中には、酸素がうまく体に取り込めなくなり、酸素吸入や人工呼吸器による治療が必要な人も出ています。

通常病院では、ガンや人工透析などの内科的、また交通事故などの外傷(けが)の入院治療を行っています。そこに、新しく未知な感染症が急激に増加することにより、入院治療ベッドは足りなくなり、職員は疲労してきています。

急激な感染拡大により、市中のマスクや防護具の生産が間に合わなくなっています。

症状のはっきりしない患者さんが病院を受診することにより、職員に感染し、院内感染を引き起こしています。

院内感染を起こした病院は、病棟を閉鎖し診療を中止することになります。ますます、限られた入院ベッドが減るという悪循環に陥っています。

今、私たちがしなければいけないのは、感染の速度を緩やかにして、時間を稼ぐことです。時間を作ることにより、病院で治療する人を減らせば、本当に必要な人が十分な医療を受けることができるようになります。時間を作ることにより、マスクや防護具を生産できます。研究の時間ができれば、必ず治療薬やワクチンを作ることができます。

そのために、今は家に居て、他の人との接触を減らすようにします。3密を避け、不要、不急な外出を減らします。マスクをして、咳やくしゃみエチケットをします。外出後は手洗いやうがいをします。部屋は時々空気の入れ替えをします。

そのことで、自分自身と自分の大切な人を守ることができます。

町民皆さんの冷静な行動を期待しています。

(令和2年4月28日 12時20分、20時放送)